

project 1

将来の島根農業を支える商品づくりプロジェクト

実施機関：農業技術センター／中山間地域研究センター

1. プロジェクトの背景

＜本県の特産作物の現状は…＞



- 栽培面積、販売共に最盛期の約半分(現在：ブドウ 284ha／19億円、メロン 60ha／5億円)
- 品種構成に変化なく、デラウェアとアムスが依然として主力品種。
- 他県産新品種との競争を避け、ニッチ需要頼みの販売。

＜参考とすべき商品化の事例＞



あまおう(福岡県)

- 県が総力をあげ7年かけ育成
- 福岡県内のイチゴは4年間で全てあまおうに転換
- 県内に困い込み。品質を保持しブランド化に成功



ルビーロマン(石川県)

- 14年かけ育成した戦略作物。『石川の宝』と呼称
- 一房10万円で取引。県産農産物の価格を牽引
- 苗木は県内に保持。栽培者もセレクトし高品質を維持

- 島根のオリジナル品種(品目)の作出が必要
- 貿易自由化への備えが必要。価格競争が及ばない高品質・高単価作物の開発を促進
- 生産規模は小さくとも、県民が胸を張れる商品づくりを推進

2. プロジェクト研究の概要

メロンのオリジナル品種の開発

＜研究のねらい＞

- 「ゴールドスター」は優れた資質を持つが、病害に弱いなど栽培が極めて難しい
- 珍しい黄皮白肉系メロン、ゴールドスターを改良し、県オリジナル品種として育成
- 養液栽培技術でゴールドスターの栽培を平易化



- 育種の実施—うどんこ病等耐性の付加、着果性の改善等
- 養液栽培法の確立—農家技術を解析し、高品質化を容易に実現

ブドウのオリジナル品種の開発

＜研究のねらい＞

- 現在振興中の新品種「シャインマスカット」の次代を担う品種開発が目標
- 例えば…一粒売りが可能な超巨大品種、雨よけ栽培で盆前出荷が可能な品種…が開発目標
- 生産者や市場関係者の評価を得て、早期に現地普及を図る



- 育種の実施—過去の育種素材を活用しスピードアップ
- 放射線育種など新しい取り組みも実施
- 栽培法も並行して開発し、速やかに現地で実証

食用きのこの新品種開発

＜研究のねらい＞

- 県内きのこ産業の拡大
- 希少性、特異性のある「新品種(島根オリジナル)—ショウロ、ナラタケ、フクロタケなど優良種菌の開発
- 種菌の普及と商品化を推進。外食産業との契約販売や輸出にも期待



- 菌株の収集と作成—国内外から収集・突然変異株の作出等
- 品種作成と栽培技術の開発

研究の成果

- 園芸と特用林産物の販売拡大
- 十年後の島根を支える農林産物開発
- 胸を張って島根産と誇れる商品を提案
- 県産農産物を牽引する価格形成力に期待
- 中山間地の有力作物(きのこ)として推進

